

人権学習指導資料等活用のための講座(12月) 報告

2024(令和6)年12月に人権学習指導資料等活用のための講座を実施しました。

今回の講座は、お二人の先生から人権学習指導資料『みんなのひろば』『みらいをひらく』を活用し、部落問題を解決する学習につながる低学年からの人権教育の取組や、障がい者の人権に係る問題を解決するための具体的な取組、学習展開等をそれぞれ報告をしていただきました。グループワークを取り入れ、受講者どうしの交流の機会を多くもちました。

この講座は、三重県人権センターでの集合型研修とオンライン型研修を組み合わせた形式で実施しました。以下、講座の概要を報告します。

12月25日(水) 10:00~12:00

《話題提供1》

『みんなのひろば』(小学校低中学年)「自分の気持ち みんなの気持ち」
「実はこれ、ぜんぶ自分なんです！」

奥田 隆広 さん(松阪市立港小学校)



《話題提供2》

『みらいをひらく』「障がい者の権利保障のために大切なこと」

岡本 衣莉 さん(伊賀市立島ヶ原中学校)



《話題提供1》

港小学校の奥田さんからは、部落問題を解決する学習につながる低学年からの人権教育の取組について、『みんなのひろば』(低・中学年)の活用を含む、年間をとおしての取組を報告していただきました。

学習展開例を子どもの実態に合わせて活用し、学校生活だけではわかりにくい家庭でのこと等も理解し合うことが仲間づくりのスタートにつながるということや子どもたち一人ひとりの背景を理解し、家庭との連携を図ることの大切さ等をお話しいただきました。

これらの報告をもとに、グループワークでは、自らの気づきや経験、子どもたちの実態に応じた学習計画の必要性等、意見交換を行いました。



《話題提供2》

島ヶ原中学校の岡本さんからは、障がい者の人権に係る学習について『みらいをひらく』を活用した取組の報告をしていただきました。



はじめに岡本さんから、『みらいをひらく』の「障がい者の権利保障のために大切なこと」を活用して、「障がいの『社会モデル』の考え方を理解する」と「“Nothing about us without us!”という言葉が大切にされている理由を考える」の授業の実践報告をしていただきました。その後、滋賀県にある障がい者福祉施設「やまなみ工房」の施設長を外部講師に迎えての学習について、当日の映像や、やまなみ工房の紹介映像を交えて説明していただきました。

グループワークでは、『みらいをひらく』の学習展開例を活用した授業展開や、施設長からのお話、子どもたちの感想についての報告等をもとに意見を交流しました。

また、効果的な人権学習を展開するために、外部講師を迎えての学習の意義や、計画、打合せの重要性等についても参加者と一緒に考え合いました。



【参加者アンケートより】

《話題提供1》

○Aに視点を置きながら、クラスの仲間づくりを進めてこられたことがよく伝わりました。人権学習指導資料も、子どもたちへの思いがあつてこそ効果が発揮されるものだと思います。いただいた話題をもとに、自分を振り返りました。またグループで想いを交流する中で、自分の立ち位置について考えました。

○いいところだけでなく、いろいろな面を知り合うためにこの取組をされ、そのことで、クラスの子どもの関係に変化が見られたということがすばらしいと思いました。表情カードで互いの気持ちを知り、声をかけ合う取組を実践してみたいです。

○資料を活用しながら、子どもの実態に合わせて学習を進めていくことの大切さを感じました。子どもたちどうしの関係が固定的になってしまいがちなときに、友だちとの出会い直しの機会にできる取組なので参考になりました。

○「仲間づくり」とは、日々の取組を大切にしたものであることを感じました。学校の実態に応じて、「こんな課題があるからこの活動をし、こんなふうに子

どもが考えられるようになってほしい」と、明確なねらいをもって臨みたいと思います。

《話題提供2》

- 実践報告の学級の課題で「友だちのことを決めつけたり、あるがままの自分を出せなかったりするところがある」と聞いて、自分が働いている学校の子どもたちも、友だちへの決めつけが多いことに気づきました。ウォーク人・フライ人が登場する「社会モデル」に関する授業は、中学校だけではなく、小学校でも活用できると感じました。グループワークをとおして、子どもたちが授業で学んだことを日常生活の中で実行できるように、計画的に取り組んでいきたいと感じました。

- 人権学習指導資料を活用した授業の後に、外部講師からお話を聞く学習を設定したことがよいと思いました。その後、子どもが自分のできることを考えて行動し、毎日の朝の会で確認することまでされているので、自分もやってみようと思いました。

- 外部講師から学ぶ学習の大切さを再確認しました。お話をただ聞く機会をつくるだけではなく、ねらいをはっきりもって行うこと等を意識することで、当事者と出合わせることが効果的な学習になることも感じました。子どもたちの生活に生かせる学びとなるよう、「この子どもたちには、この人を出会わせたい！」というねらいをもった学習を計画していきたいです。

- 人権学習を通じて障がい者に対する見方・考え方が変わることや、いつの間にかもってしまった自分自身の差別心に気づくことが大切だと思いました。差別をなくす取組を進めている人のお話を聞く学習にはそれを学べる力があります。私も、自分の中にある差別心と向き合うことを、子どもたちと同じように大切にしていきたいと思います。